

## 滋賀県文化審議会評価部会第3回会議 議事概要

- 1 日 時 平成24年3月22日(木) 13:30～15:30
- 2 場 所 滋賀県庁 本館4-A会議室
- 3 出席者 委員 : 東委員、河島委員、直田委員、殿村委員、富永委員、中川委員  
(6名出席)
- 各文化施設: 財団法人滋賀県文化振興事業団 柴田副理事長  
満田文化経営戦略室長  
公益財団法人びわ湖ホール 西川事業部長  
近代美術館 高梨学芸課長  
事務局: 多胡次長、西川課長、片山参事
- 4 議 題 (1) 滋賀県文化審議会評価部会第2回会議の主な意見  
(2) 滋賀県文化審議会第7回会議の主な意見  
(3) 県立施設の事業評価について  
・各施設の評価等の現状について  
・平成24年度の事業評価(案)  
(4) 日本版アーツカウンシルについて  
(5) その他
- 5 議事録概要 以下のとおり

次長挨拶

議題

(1) 滋賀県文化審議会評価部会第2回会議の主な意見

(2) 滋賀県文化審議会第7回会議の主な意見

事務局より説明

(3) 県立施設の事業評価について

・各施設の評価等の現状について

財団法人滋賀県文化振興事業団柴田副理事長より財団法人滋賀県文化振興事業団で実施している事業評価の概要を説明

公益財団法人びわ湖ホール西川事業部長より公益財団法人びわ湖ホールで実施している事業評価の概要を説明

近代美術館高梨学芸課長より近代美術館で実施している事業評価の概要を説明

・平成24年度の事業評価（案）

事務局より説明

意見交換

委員 評価は学芸員からレクチャーや事前説明を受けるのか。外部評価は評価委員が集まって実施するのか。また、評価は個人的な意見を集めるだけなのか、評価部会としてのある種の見解を出すのか。

事務局 評価の実施方法はまだ白紙の状態ではあるが、学芸員から説明することもできる。実際に最低でも2人は視察をいただきたい。あまりに各委員の都合がつかない場合は事業の入れ替え等も考えたい。

部会長 実際に事業を観た上で評価に協力することは部会としては望ましい。机上の空論ではなく、観た上で議論しているということは必要だ。

（4）日本版アーツカウンシルについて

事務局より説明

委員 文化庁でアーツカウンシルの海外比較調査を京都のCDIというシンクタンクに委託して行っている。今年度中に調査報告書が文化庁を通じて公表される。イギリス、アメリカ、オーストラリア、韓国、フランスの5か国を調査し、各国で事情が違って比較が大変難しいが逆に国ごとの特徴が分かっておもしろい調査だった。

委員 アーツカウンシルは専門性を持った人材を雇い入れ、ヒアリングやいろいろな調査を繰り返しながら、基準を明確にした上で助成を行う、といったイメージだ。芸術団体の側から助成の採択基準に透明性がない問題について、応えていける仕組みだ。

部会長 アーツカウンシルに助成審査、シンクタンク、パイロット事業の実施という機能が必要だということだが、本当にそれをやろうとすると巨大な組織が必要だ。パイロット事業や助成の審査の機能はより芸術団体やアーティストとの協働連携の中で判定していく、一緒に創っていくということが望ましい。

委員 アーツカウンシル導入ありきではなく文化行政がどうありたいのかのかという課題の洗い出しから始めた方がよい。

部会長 政策的な望ましい方向や、どこに滋賀県として先行投資すべきかなどの大きな戦略の中から制度設計をした方がいい。この問題は審議会でも議論してもらおう。

以上